

ニュージーランド星空事情 クイーンズタウンからテカボ往路編

12月20日から26日にかけて、南半球の星空を求めてニュージーランドの南島に出かけてきました。南天の星見では、例年、オーストラリアのパスに出かけるのですが、今期は行先を変更です。ニュージーランドといえば、ロードオブザリングを代表として、いろいろな映画やCMのロケ地に使われ、地球の箱庭ともいわれている風景が魅力ですし、また、パスに比べて緯度が高い（南緯45度）ので天の南極も高く、趣の異なる星空に期待が高まります。

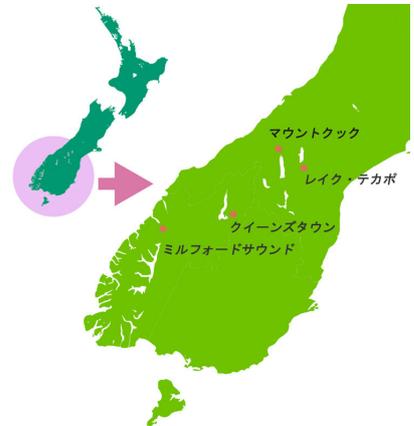
今回、オークランドを経由してQueenstownにはいり、そこを拠点として、レンタカーでLakeTekapo、Mount Cook、Milford Soundと、都合1200Kmあまりを踏破しました。

さて、なにはともあれQueenstownです。ここは、氷河湖であるワカティブ湖の東端に位置し、3万人程度の人口の街に年間130万人の観光客が訪れるという、アウトドアスポーツ満載のNZ屈指のリゾートタウンです。

ショップやレストランは市街地中心部に集中していてたくさんの人で賑わい、交通法規は無きがごときであります。しかし、中心部から1Kmも離れると人家もまばらになり、森林地帯となるので、少し足を延ばすだけで、星空が臨めるロケーションになります。（事前のGoogleMap情報）そんなことから今回は、星空観察も想定して郊外地に立地しているHeritageHotelを選んで宿泊しました。

さて、Queenstownの年間降水量は750mm程度と比較的少ない方です。実は到着当日にはにわか雨が降っていたのですが、傘をさしている人は殆どいなくて、傘が必要なほど雨が降らないのか、そもそもイギリス人は傘を持たないそうなので、その連邦国であるNZには傘は売られていないのかもしれない。（うそ）それはともかく、地元の気象情報などを見ると、晴天率が高いというよりは、どちらかというと天候は不安定で、曇りがちな天気の日が多いようにも思われます。

その到着した日（21日）は、先に記したようににわか雨が止むこともなく、市街地でお買い物をして、夕食（ひつじ！）を摂って、そして旅の疲れもあり、初日の夜は、晴れることを気にせずによくりと休むことができました。



翌22日は朝から晴天になりました。日本を発つ前は雨続きの壊滅的な天気予報が出ていたことを思うと、起死回生（快晴）であります。そこで、朝から湖畔を散歩しながらレンタカーを借りて市街地に出かけ、その足で、当初予定していた星見場所を偵察しに出かけました。実は、出発前にStreetViewで周辺を下見していて、ホテルからさらに1Kmほど西のところにある湖畔の高台が素敵な観望場所になると踏んでいました。実際に出かけてみると、高さ数十mの湖畔の断崖（柵なし）に駐車スペースのあるビューポイントが設けられていて、南東側にクイーンズタウンの市街地を臨む、絶好の観測場所になっていました。惜しむらくは南側のフィヨルドの山が少し高め（15度くらい）で、もし雪があったなら素晴らしい景色であったろうに、夏場ではただの邪魔な岩山にしか過ぎなかったことです。この辺は、もし次回があれば、訪れる季節を考えたいところです。

下調べでは、もっと西の遠いところに第2の候補地もチョイスしていたのですが、そこに行くまでもなく、観測地が決定しました。

さて、いったんホテルに戻った後、カメラと宿泊のための準備を整えて、星空の街、Lake Tekapo に出発しました。片道約 250Km の道のりで、フリーウェイではないものの、ほぼほぼ高速道路並みの速度が出せる農免道路のような道をあちこちと寄り道をしながら快適に走りました。Tekapo までの道では、峠を越えるたびに違う植生、違う風景が展開し、(西オーストラリアを走っているような) 単調さは全くありません。やがて Tekapo が近づくにつれて、ルピナスの群生が目につくようになり、やがてピンクや紫、白色と咲き乱れる一面のルピナス畑となりました。

さて、Tekapo の街に入り、なにはともあれ、ロケハンもかねてかの有名な「善き羊飼いの教会」を見に行きました。その教会は、テカポ湖の南側の畔に建っていて、これといった障害物もなく、360 度どの方向からも写真を撮ることができます。まずは、ぐるりとひと巡りして、撮影ポイントの候補地にアタリをつけて、ひとまず宿に向かいました。

今回、宿泊したのは、Blue Star Inn Tekapo という日本人の方が経営している宿(自宅の半分を独立した宿泊スペースにした素泊まり宿)で、シンプルではありますが、小奇麗なところがありました。それに何といても夜中にも自由に入りができて星屋にとってありがたいところでした。

ところで Tekapo は南緯 44 度と高緯度に位置しているため、夏至の頃はとても夜が短くなります。さらにサマータイム制もあって、日没は 21 時 30 分頃と遅く、23 時近くになってようやく暗くなるという状況でした。その頃合いに、再度夕景の様子を見るために教会へ行くと、観光客はすっかりいなくなって、ひとしきり写真を撮ったのですが、いかんせん星空の方も地味な時間帯だったので、南十字星が上がってくる頃にもう一度来ようとその場を引き上げました。ところが、つい、外の明るさに騙されてゆっくりとしていたため、街のお店がみんな閉まってしまい、夕食難民になってしまいました

編集雑記

今回のニュージーランドは、国内線で乗り継ぎをするため、その辺の面倒をみてもらえるツアーを利用しました。現地では完全に自由行動なのに妙なところで融通の利かない場面もあつたりしましたが、いざというときには現地デスクが使えるという安心感があり、気分的に楽でした。

た。街中をさまよったものの食材すら手に入らず、結局、お昼に食べ残したポテチやお菓子で食いつなぎながら小休止しました。

そして深夜 1 時を回った頃、雲が流れるお天気ではありましたが、教会と南十字星、そして ISS の通過というワンショットを狙って、通過予定の時刻あわせて改めて教会に出かけました。すると、どうしたことか、こんな時間なのにカメラを構えた観光客でいっぱいになっていて、それぞれの構図で夜景の撮影をしていました。それに殆どの人が夜間での撮影に慣れていないので、フラッシュライトが縦横に動き回って、てんでに照明されるため、様々な色彩で教会が浮かび上がり、期待していたタイムラプスは絶望的な状況でした。それでもある程度視野が確保できる場所に三脚を据えて、予定の構図で固定撮影ができたのは幸いでした。

ところで Tekapo は、星空を観光の目玉にしているということ、もともと街が小さい…ということも身もフタもないのですが、照明や広告が控えて、光が夜空に向かわないよう、街灯には背の低いナトリウムランプが使われるなどの工夫がされていました。ただ、空が一級品の暗さであるだけに、遠くのナトリウムランプでさえも光害の原因となり、教会付近のような街に近い場所では風景や低い雲がオレンジ色に照らされてしまうという困った状況にもなっていました。本格的に星を撮ろうと思うなら、街から遠い場所に出かける必要があるようでした。(第 2 部に続く)



でも、もう勝手がわかったので、コストを抑えて今度からは自前でかけたいと思っています。次は、北島で温泉と火山、それにホビット村、星も忘れずに撮りたいなあ。

Kz_Wada 和田一人 Kazuto.wada@nifty.com